

簿記・会計 解説

第3問

資料1～4の帳簿から1月の取引を時間順に仕訳を行うと以下の通りになる。

1日:		消耗品費	3	消耗品	3	仕訳帳
2日:	本店	前期中に行ったため仕訳の必要なし				資料1
	支店	買掛金	400	本店	400	
7日:	本店	消耗品費	10	支店	10	資料1
	支店	本店	10	現金	10	
9日:	本店	仕入	870	支店	870	資料1
	支店	本店	870	仕入	870	
10日:		売掛金	290	売上	290	売掛金元帳
13日:	本店	現金	120	支店	120	資料1
	支店	本店	120	現金	120	
14日:		当座預金	260	現金	260	現金出納帳
15日:	本店	支店	170	当座預金	170	資料1
	支店	給料	170	本店	170	
16日:		受取手形	[ク][ケ]0	売上	[ク][ケ]0	売上帳
17日:		当座預金	356	受取手形	[ク][ケ]0	当座預金出納帳
		手形売却損	4			仕訳帳
		保証債務費用	9	保証債務	9	仕訳帳
18日:		給料	320	当座預金	320	当座預金出納帳
21日:		支払家賃	()	当座預金	()	当座預金出納帳
25日:		現金	270	売上	270	現金出納帳
26日:	本店	支店	310	現金	310	資料1
	支店	支払家賃	310	本店	310	
26日:		当座預金	160	売掛金	160	売掛金元帳
28日:		売掛金	540	売上	540	売掛金元帳
30日:		当座預金	240	売掛金	240	当座預金出納帳
		受取手形	450	売掛金	450	仕訳帳
31日:	本店	支店	100	当座預金	100	資料1
	支店	広告費	100	本店	100	

問1.

- 2日の仕訳から [ア] = 買掛金 (解答群の7.)
 9日の仕訳から [イ] = 仕入 (解答群の9.)
 7日の仕訳から [ウ] = 消耗品費 (解答群のa.)
 13日の仕訳から [エ] = 支店 (解答群の1.)
 14日の仕訳から [オ] = 現金 (解答群の2.)

9日の仕訳から [チ] = 仕入 (解答群の9.)

問2.

- 26日の取引から [カ][キ]0 = 160.
 17日の取引から [ク][ケ]0 = 356 + 4 = 360.

[コ][サ]0 は売上帳の売掛金の合計（値引きは除く）であるため、 $[コ][サ]0 = 290 + 540 = 830$.

[シ][ス]0 は30日の売掛金の回収に関する取引であるため、 $[シ][ス]0 = 450$.

売上帳から売掛金の勘定元帳への転記は売上分と値引き分を区別して記入する。 $[セ]0$ は値引き分の記入に当たるため、 $[セ]0 = 20$

[ソ][タ]0 は当座預金出納帳の支店欄の合計を転記する。当座預金出納帳の31日の欄は支店からの広告費 ¥100 が記入されるため、 $[ソ][タ]0 = 170 + 100 = 270$.

問3．3つの特殊仕訳帳（現金出納帳、当座預金出納帳、売上帳）のうち二つの特殊仕訳帳に記入されているのは以下の2個の取引である。

- 14日：現金出納帳、当座預金出納帳に記入
- 25日：現金出納帳、売上帳に記入

これらの取引の合計額は $260 + 270 = 530$.

問4．2月10日に、1月17日に割り引いた約束手形が決済されたむねの連絡を受けた。このとき保証債務を取り消すため仕訳は以下の通りになる。

（借）保証債務 9 （貸）保証債務費用 9

以上より [ト] は0．保証債務が入る。

問5．総勘定元帳の支店の欄で前期繰越の金額は ¥590. これは支店の総勘定元帳の本店の欄で前期繰越に対応する。

しかし資料1の取引で、前期に本店が支店の買掛金 ¥400 を支払っているため、

支店における本店勘定の前期末残高 $+ 400 = 590$

が成り立つ。よって、支店における本店勘定の前期末残高は 190 である。